



## 新上五島 落成に信者ら笑顔



修復された教会で行われた献堂式ミサ＝新上五島町

# 焼失の江袋教会「復活」

2007年2月の火災で大部分を焼失し、今年3月末に修復工事を終えた江袋教会(新上五島町曾根郷)の落成・献堂式が9日、現地であり、信者らが約3年ぶりの復元を喜び合った。

同教会は1888年に創建。日常的に使われる教会としては国内最古だった。

台形の屋根やこうもり傘のような形の「リブ・ヴォールト天井」が特徴。火災後の07年4月に町有形文化財に指定。現在、県有形文化財指定に向けた手続きも進められている。

火災は、漏電が原因とみられ約200平方メートルを焼いた。ただ、柱や梁(はり)の骨組みは一部残っており、

り、焼けた木材の表面を合成樹脂で覆うなど残存部を生かしながら修復。調査工事費を含む総工費は約2億円。県や町からの補助金のほか、同教会を所有するカトリック長崎大司教区(高見三明大司教)が寄付を呼び掛けた。

式には信者ら約200人が参列。高見大司教や井上

俊昭町長ら4人がテープカットして復元を祝った。この後、教会内で献堂式ミサがあり、高見大司教は「この3年の間待ち遠しかったと思う。教会が末永く祈りの家として存続することを祈っている」と述べた。

参列した信者の尾上勇さん(80)は「焼けた教会がこのように修復されるとは思わなかった。今日の喜びは言葉では表しきれない」と涙ながらに語った。

(宮本宗幸)

て起きた。カネコが選挙区をめぐって、党員連の選挙手法を正面から批判したのである。県連幹事長や県議会議長を務め、普段あまり感情を表に出さない人なので、関係者は驚いた▲一方事実上名指された金子原二郎前知事も、「(加藤県議の)気持ちはよくわかる」と述べた。候補者として名前の挙がった両氏を含む4人は、いずれもオープンな場での選挙を望んでいたのだ▲ところが今回は、国会議員と県議で構成する拡大委員会が主体となり、密室で調整が図られた。1カ月以上もめた揚げ句に投票で決着し、しこりを残した▲先の知事選に続き、理由の判然としない県連執行部内のごたごたに、周囲は「本気で選挙を戦う気があるのか」とあきれ顔だ▲加藤県議は「このようなやり方で、党は、県は、国はどうなる」と憂えた。これを機に同志を募り、県連運営の正常化に乗り出すのか、それとも私憤のままで終わり、中央と同じ道をたどるのか。「乱」の行方に注目したい。(英)